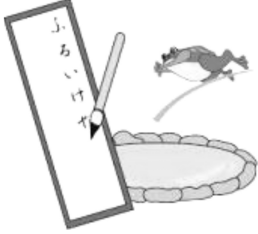


灘句会 指折って五七五や秋暑し

灘区の定例会は50名の会員のうち10名前後の参加者でボランティア活動を発表しあったり地域での活動、イベント、健康へのアドバイスなど話合っています。その中で昨年9月からカレッジ句会の講師を始めたことを話した時、灘の区会でも俳句を詠もう・・ということになり今では1人3句、4句と出句され時間内では収まらないほどの盛り上がりようです。



8月の句を披露します。

平和とは生きてこそ在り蝉しぐれ	飯井冴子
鶏頭の日暮れても紅矢はず	木下完治
柚谷に底抜けの降り秋の雨	福島康弘
六甲の尾根輝くや夏惜しむ	渡辺寛治

約束ごとは①季語を入れる、②五七五の定型に調える、の2つだけです。

口語体でも文語体でもよいのです。1句の中で混じり合わないように…。身の周りの自然に目を向け生き物の在りように意識を持ち1日を充実したものにしてください。人生経験豊富な方々ばかり、句材には事欠かない強みがあります。

次の定例会にどんな出句があるか楽しみです。
(木原愛子・福1 灘区会)

野鳥と自然観察会 研修会開催

野鳥と自然観察会は8月28日、生環の授業でおなじみの山根みどり氏を迎えて研修会を開催(写真⑩=野見喜安昭撮影)。31人が受講しました。環境省の野鳥調査員として活動している氏には、私たちが双眼鏡を通して見ている鳥の世界とは別の姿が見えているようで、会員にとっては興味深い体験談を聴くことができました。



「景観の確保のためであっても、繁殖期に草刈りをするのは野鳥の殺傷や損傷を禁じた鳥獣保護法に抵触する可能性がある(東京新聞 2014. 8. 14)」との言及もあり、しあわせの村内で実施されている過剰な草刈りも気になりました。生き物との共存は言うほど簡単ではないようです。

(堀池邦康・生17 長田区会)

垂水会 東灘・御影地区歴史探訪

梅雨の合間の6月10日、垂水会歴史探訪を開催。1期生から、18期までの有志総勢30名弱が参加しました。午前9時に阪急御影に集合し、3グループに分かれて出発。東灘ボランティアガイドの案内で、深田公園から見る小原流家元邸、光悦寺垣(竹垣)の道、小磯良平の絵も展示されている世良美術館、八咫鳥がシンボルと言われる弓弦羽神社、香雪美術館の石垣を見ながら菅原道真が祭神の網敷天満宮、そして石屋川鉄道トンネル跡の南公園で昼食。



御影駅前ガイドの説明を聞くメンバー

あと、御影公会堂から徳川道起点。「沢の井」の霊泉は神功皇后もお化粧水に使われた(由来説明板)。最後は阪神御影駅で無事解散しました。

深田池や弓弦神社は、近世までの豊かな農村の名残を残しているようです。東灘・御影地区は旧さと新しさを持った豊かな活気のある町という印象でした。
(板野武一・生16 垂水区会)

ホームページ内容一新

7月よりグループ<わ>のホームページ(HP)を大きく衣替えしています。新しい多くの情報を載せ、見易く、楽しいHPにすることを目指しています。

トップページはお知らせコーナーと新着情報とし更新個所を明確に表示しました。概要、本部活動、東北支援のページを新規に設けました。各ページ毎に、関連するぎゃらりーわの記事を見られるようにしました。各ページにグループや活動の紹介、イベントの開催案内、記録なども掲載して、内容が豊富なHPにすることを考えています。

HPをより良いものにするために、会員皆さまからのグループやボランティア活動についての情報提供をお願い致します。<わ>のHPは、インターネット検索にて 検索欄にグループわと打ち込み検索して、検索結果の上部に表示されるグループわをクリックするだけで、HPを開くことができます。(広報HP担当・岡本紘一)